

東北地方太平洋沖地震

春寒の候、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

この原稿を書いているのは震災直後です。

テレビで見る悲惨な映像には、言葉ありません。被害は甚大ですし、死者は何人になるか見当もつきません。…

阪神淡路大震災の時の忘れられない映像があります。体育館に避難した人のインタビューシーンです。30代ぐらいの男性でした。

「奥様は？」「死にました」「…」

「お子様は？」「死にました」「…」

インタビュアーは言葉がでず、映像が切り替わりました。その男性の平然と答える姿に逆に深い悲しみを感しました。

私も、7才の頃、朝、会社に行った父親が次の日の朝には心臓マヒで亡くなっていました。悲しみよりも「うそだ」という感じで「へらへら」していました。実は、いまだに「父の死」は実感できません。

何故なら、いまだに目をつぶれば、「父」は出てきます。いろいろな岐路には、いつも私を守ってくれています。貧乏になりましたが、何の不満もありませんでした。ただ「受け入れて」、自分ができる精一杯の事をする。それだけの人生でした。

やっぱり、お金よりも頭や体に入れてもらった「思い出」や「経験」が、そしてなによりも「強い気持ち」が「成長」には必要です。

「復興」は日本をあげて行いましょう。

「日本」にはそんな「力」があり、「経験」と「強い気持ち」のある「国」です



代表取締役社長 吉田治伸

(3月14日当社HP社長日誌改)